お念仏の道を伝えた七高僧

出典：梯　實圓2023『正信偈講座』本願寺出版　118頁：第9章お念仏の道を伝えた高僧たち

＜ 七高僧選定の基準 ＞ cf p.120

①自分が浄土を願生するひとであること（単なる学問として著しただけの人ではない）
②浄土教を開顕(＊２)した著作であること　　**＊2：仏の真実としての初めての説明**
③著作の中に阿弥陀仏の本願力による救済を説いて強調していること
④法義上の新しい開顕があること（初見で新規性の開顕があること）

＜『 正信偈』 ＞　善導大師の『観無量寿経疏』に基づいて書かれた　cf　p.246

『観無量寿経』：幽閉された韋提希夫人の求めで説かれた釈迦様のお経
➡人間の一番醜い姿がこのお経の発端になっている
➡どうしようもない人間に光を与えようとするお経
➡切羽詰まった状態の人びとの心に安らぎと豊かさを目指すお経

国名	No	高僧の名前	活動期間（注）	主著書（注）	「浄土教」の開顕	詳論（頁）
インド	1	**龍樹菩薩**	西暦150~250年(推)	**『十住毘波論』** 『中論』、『十二門論』、『大智度論』	**仏教の中に難行道と易行道の枠組を提唱**（浄土教枠組の祖師） ➡大乗仏教の「空」の思想の体系化。「空」：その存在を知性で捉えられないこと**cf.140,186**	131
	2	**天親菩薩**	西暦400～480年	**『浄土論』**（『無量寿経優婆舎願生偈』） 世尊我一心　帰命尽十方　無礙光如来　願生安楽国（世尊よ、我に一心尽十方無礙光如来に帰命したてまつりて、安楽国に生ぜんと願ず）**cf162**	**浄土教の枠組の基本を決定**（阿弥陀仏の救いを明らかにされた）	157
中国	3	**曇鸞大師**	西暦476~542年 **538年：日本に仏教伝来**	**『往生論註』**（『無量寿経優婆舎生偈』） 『観経』を初めて信仰規定経典として扱った	**浄土教は易行道であると解釈論理を示した** ➡親鸞聖人が教学的視野、新たな思想的視野を開かれた	184
	4	**道綽禅師**	西暦562~645年 （隋・唐初期）	**『安楽集』** 『観経』の思想を仏教体系としてまとめた	**「他力」の道(浄土の教え)が阿弥陀仏の本願念仏であると結論** ➡「末法」の時代では凡夫の救いは浄土の教え以外には道はないと論証された	211
	5	**善導大師**	西暦613~681年 （隋末期・唐初期）	**『観無量寿経疏』**（「観無量寿経」註釈書） **「凡夫が凡夫のままでお念仏を申すことによって本願力に乗じて即時に浄土に往生する」とお釈迦様の本意が説かれている（ｃｆ245）**	**「正定業」という考えを導入し称名念仏を説かれた** **仏、阿難に告げたまはく、「なんぢよくこの語を持（たも）て** **この語を持てといふは、すなはちこれ無量寿経の名を持てとなり」**	239 **(cf.260)**
日本	6	**源信和尚** 恵心僧都（師・慈慧大僧正良源）	西暦942~1017年 （律令体制崩壊、摂関政治）	**『往生要集』**：日本最初の「浄土教」文献 平安時代王朝文化の精神的支柱（西方浄土） ➡煩悩の故に仏様の光明に照らされていることが確認できないけれど、仏様は念仏の衆生を捨てないと言われている（**cf311**）	**「極重悪人無他方便　唯称念仏得生極楽」➡「極重悪人唯称仏」** **「我亦在被摂取之中　煩悩障眼雖不能見　大悲無倦常照我身」**	292**(cf309)** **(cf310)**
	7	**法然聖人** 法然房源空（師：恵心流・皇圓阿闍梨）	西暦1133~1212年 （平安時代末、院政期）	**『選択本願念仏集』**建久9年（1198）著す 阿弥陀仏は念仏以外の行を「選び捨て」 念仏を往生の行業として「選び定めた」(**cf346**) **「三選の文」**（『選択本願念仏集』要旨） 第一章「二門章」道綽禅師、聖道・浄土の二門を立てて、聖道を捨ててまさしく浄土に帰する文 第二章「二行章」善導和尚、正雑二行を立てて、雑業を捨てて正行に帰する文 第三章「本願章」弥陀如来、余行をもって往生の本願となさず、ただ念仏をもって往生の本願となしたまへる文	**建久元年（1190）「浄土宗」立教開宗** **善導大師のご文「一心専念弥陀名号　行住坐臥不問時節久近** **念念不捨者是名正定之業　順彼仏願故**（かの仏の願に順ずるがゆゑなり）」 ➡念仏は私の行ではなく、如来が往生の行として定めた行だと気づき回心された	318**(cf355)** **(cf341)** **(cf359)**
		親鸞聖人 （得度の師・慈円僧正）	西暦1173~1263年	**『顕浄土真実教行証文類』（『教行信証』）** 法然聖人の浄土教を全仏教の中に位置付け、七高僧の伝灯を見直し、伝承を立てて理論的に真理性を確認して顕されたた。（**cf124**）	**元仁元年（1224）4月15日『教行信証』草稿本完成、真宗立教開宗** **➡自然法爾**（展開の背景：善導大師「心専念弥陀名号・・・順彼仏願故」） **（一心にもっぱら弥陀の名号を念じて、行住座臥に時節の久近を問はず念念に捨てざるは、これ正定の業と名づく）** ➡自己のはからいを打捨てて，あるがままに阿弥陀如来の誓いにすべてを生ききる	**真宗教団連合** **(cf340)**

2024年6月13日　文責：釋智秀（前田秀一）